

多施設の糖尿病患者コホートをを用いた **Diabetic Kidney Disease** の実態および発症・進展因子の解明

博士課程 3 年 吉田唯

国内の糖尿病の罹患率は増加傾向にあり、2014 年の患者調査では過去最高の 316 万 6000 人となった。合併症として腎障害を生じる患者も増加し、1998 年以降は透析療法導入における原疾患の 1 位を占めており、その割合は 2015 年時点で 43.7%と大きい。

これまで糖尿病性腎症と定義されてきた腎障害の発症パターンとしては、糖尿病(型を問わず)の発症以降、5-10 年後に微量アルブミン尿が出現・増加し、顕性アルブミン尿または持続蛋白尿となり、**GFR(glomerular filtration rate)**の低下が生じ、末期腎不全に至るという経過である。一方で、糖尿病を原疾患としていても、アルブミン尿に比して **GFR** の低下が先行して生じる群についての報告が近年多く、米国ではアルブミン尿 $\geq 30\text{mg/gCr}$ または **GFR** $< 60 \text{ mL/分/1.73m}^2$ の群は **Diabetic Kidney Disease(DKD)** と定義され、糖尿病患者の 34.5%を占めることが明らかとなった。ただ、この **DKD** の定義については全世界でコンセンサスが得られているものではない。本邦でも糖尿病患者全体を対象とした **DKD** の割合を調べた大規模な研究は存在しない。このため、本研究にて既存のコホートを統合し、本邦での **DKD** の存在割合・発症及び進展の背景因子を解析した。また、**DKD** の中には早期から **GFR** の急速な低下を生じる一群(**Early Decliner**)があり、この群の特徴や割合、急速な **GFR** 低下に関連する因子を解析した。

本研究では **AMED 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業/腎疾患実用化研究事業 (公募事業)** より研究開発項目「糖尿病患者コホートをを用いた **Diabetic Kidney Disease** の実態および発症・進展因子の解明」として承認を得た。平成 29 年度から 3 年計画で、研究参加施設の既存のコホートのデータベースを利用して解析を行う。

参考文献 : Ian H. de Boer, MD, MS, Tessa C. Rue, MS, Yoshio N. Hall, MD, Patrick J. Heagerty, PhD, Noel S. Weiss, MD, DrPH, Jonathan Himmelfarb, MD. Temporal Trends in the Prevalence of Diabetic Kidney Disease in the United States. *JAMA*. 2011;305(24):2532-2539. 等